

関市が
もっといいまちに
なるための提案書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成24年からはじまりました。今期、第3期関市まちづくり市民会議は、平成26年10月にスタート。毎月1回第3火曜日に全体会、そして必要に応じて部会を開催し、これまで10回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、22名の公募の市民により構成されています。10代～70代の幅広い年齢層となっており、10～20代9人のうち、大学生6人の参加があり若年層がいっそう厚くなりました。

今期の市民会議は、まず自分が関市のまちづくりに対する問題意識を発表し合うことからはじめました。そして、平成26年11月の第3回から部会に分かれました。A部会：関の観光を考える、B部会：若者が活躍する、C部会：関のブランディングを考える、D部会：関の防災を考えるといった、それぞれのテーマから具体的に提案する政策を検討してきました。

〈まちづくり市民会議の歩み ～全体会～〉

	開催日	会議内容
第1回	平成26年 10月21日	マトリクス自己紹介、問題意識の発表会
第2回	11月1日	勉強会「関市のまちづくりを考えるための公共政策学の視点」若生幸也さん(政策アドバイザー)
第3回	11月18日	部会分け、地域課題を議論する / 懇親会
第4回	12月16日	部会で取組む課題について調査、担当課へヒアリング
第5回	平成27年 1月20日	部会で取り組む地域の課題を選定する
第6回	2月17日	課題を深める、目指す姿を決める
第7回	3月17日	市長との中間報告交流会 ワールドカフェ形式で市長と意見交換
第8回	4月21日	提案事業を構築する
第9回	5月19日	提案事業を構築する
第10回	6月16日	提案事業を決定する

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期、第2期とまちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

※採用された提案(マーク付)については実施状況を記載しています。

※担当課からの回答は、第1期、第2期ともそれぞれ8月の回答を元とし、進捗がある事業に関しては、現状を追加しています。

【第1期】



「親子読書コンクール」

概要) 夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有します。そして親子読書の様子を発表するコンクールの開催を提案します。

結果	採用
実施状況	平成25年8月27日に「ファミリー読書発表会」を開催しました。学校等から推薦のあった家族(3~4組)の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表、市立図書館の取組についての発表をしました。 今年度は8月27日(木)に開催します。(学校教育課)



「子どもたちの地域間交流」

概要) 市内の小学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施することを提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	平成24年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。(学校教育課)



「学校のHPの改革」

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成することを提案します。

結果	採用
実施状況	HP運営について、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。 (学校教育課)

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebook グループ等の SNS を活用する。

結果	不採用
担当課からの回答	「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとうとうとも時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。(学校教育課)

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切だが、親、子どもと教師と一緒にあって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれる。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ（たとえば、綱引きや玉入れ）を学校対抗で行うことを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思っています。 (学校教育課)



提案
6

「関シティバス・デマンドバスの導入」

概要) 利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスの導入を提案します。

結果	採用
実施状況	<p>現在4地域(富野、田原、迫間、向山)で導入している簡易型デマンド運行バスは、10人から15人乗りのワゴンを利用し予約に応じた運行を行っております。</p> <p>現在、定時定路線で運行している関シティバスの中で、わかくさ・下有知東線、下有知西線、小瀬線については、関市のバス運行評価において運行形態の見直しを行うという結果が出ました。それを受けて上記3路線の運行エリアにタクシー車両を利用したデマンド運行を今年度導入しました。(市民協働課)</p>

提案
7

「シティバス・定期乗車券の導入」

概要) 公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券の導入を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100円券が11枚綴りで1,000円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。(市民協働課)</p>

提案
8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」

概要) 持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置することを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>長良川鉄道につきましては、マイルール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。</p> <p>現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいておりますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。(市民協働課)</p>

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」

概要) 新たな利用者を増やすため観光事業との連携を提案します。1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。(市民協働課)

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」

概要) 観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車の復活を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年3月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長(取締役)に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。(市民協働課)

【第2期】

提案
1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」

概要) 市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めます。継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ります。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。(学校教育課)

提案
2

「キャリア・コーディネーター設置事業」

概要) より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置します。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たします。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。(学校教育課)

提案
3

「関市版キッズニア事業」

概要) 子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらいます。「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等、関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにして、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。(学校教育課)</p> <p>関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間(8月26日～29日)に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思えます。(商工課)</p>

提案
4

「キャリア教育の日の制定」

概要) 市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思えます。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。(学校教育課)</p>



提案
5

「市長、部長インターンシップ」

概要) 関市内の若者に、関市長、部長インターンシップする事業を提案します。

結果	採用
担当課からの回答	<p>提案された内容を実施可能な形にするため、募集人員、期間、交通費について一部修正させていただき、今年度実施予定です。活動報告会については、まちづくり市民会議のみなさんが主体となって開催を検討していただきたい。(職員課)</p>



提案
6

「学生による投票率アップチームを結成」

概要) 若者の投票率を上げるために、学生による学生に向けた投票率アップを訴える広報を考える事業を提案します。

結果	採用
実施状況	平成26年度、学生を公募し、学生による啓発グループ「ikomai プロジェクト」を結成しました。成人式や関まつりで投票率アップのための啓発活動を行いました。(総務管財課)

提案
7

「高齢者いつでもサロン」

概要) 高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会(概ね小学校区を単位として設置)の取り組みとして提案していきたい。(市民協働課)</p> <p>提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在常のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。(高齢福祉課)</p>

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」

概要) 高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。(企画政策課)</p> <p>シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。(高齢福祉課)</p>

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」

概要) 提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	<p>まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。(高齢福祉課)</p> <p>地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。(生涯学習課)</p>

提案
10

「幸せ創造授業」

概要) 子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間をとります。

結果	不採用
担当課からの回答	学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。(学校教育課)

提案
11

「幸せ実現企業」

概要) 提案 10 で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場「ビジネスアイデアコンテスト」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案なので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているので、提案の報告をしながら検討してまいります。(商工課)

提案
12

「幸せ応援行政」

概要) 提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートすることを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業2にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。(商工課)



平成 27 年 3 月 17 日市長との意見交換会

第 3 期まちづくり市民会議

委員

A 部会：坂元広幸（リーダー）/ 大野克幸 / 長瀬史弥 / 山田武夫

B 部会：芦田溪（会長・リーダー）/ 小関加奈 / 輿英樹 / 橋谷光喜
長谷部雄也 / 花井秀和 / 山田銃次

C 部会：小野江哲雄（リーダー）/ 宇佐見将太 / 佐藤敦 / 富田勝 / 長屋聡巳
早川貞子 / 町田尚義

D 部会：包子賢一（リーダー）/ 河田富男 / 多田富士夫 / 古田進

発行日

2015 年 7 月 18 日

発行

関市まちづくり市民会議（事務局：関市市民活動センター）

関市千年町 2-18-1 安桜ふれあいプラザ 1F

TEL 0575-24-7772 FAX 0575-24-7660

emai: info@seki-siminkatudo.com